

2 ヤマト政権

今回の学習内容はこう理解せよ！

ヤマト政権は、決して成立当初から全国に支配を及ぼしていたわけではない。政治機構を整えながら、次第に勢力を拡大していったのである。ヤマト政権が小国の連合体から、大王を頂点とした国家へと成長していった過程を確認してほしい。

知識を整理

◆古墳の出現

3世紀中頃から後半になると、大きな墳丘を持つ古墳が営まれる

▶古墳の変遷

| | 前期 (3世紀中頃～4世紀後半) | 中期 (4世紀後半～5世紀末) | 後期 (6～7世紀) |
|-----|---------------------|--------------------|---------------|
| 地域 | 畿内(大和)中心 | 全国に拡大 | 各地に普及 |
| 特色 | 前方後円墳, 円墳, 方墳 | 前方後円墳の巨大化 | 群集墳 |
| 石室 | 竪穴式石室(追葬不可) | 竪穴式石室(追葬不可) | 横穴式石室(追葬可能) |
| 副葬品 | 銅鏡・玉などの祭器 | 馬具・甲冑・鉄製武具 | 須恵器・土師器 |
| 被葬者 | 司祭者的性格 | 軍事的政治的支配者 | 豪族・有力農民 |

▶古墳出現の意義

- 古墳は、その形態や埋葬施設など、特徴が画一的
→広域の政治連合の存在が、古墳出現の背景にあったと考えられる
 - 4世紀前半の大規模な古墳は大和地方に集中
- ▶4世紀前半頃までに、九州北部から中部地方を統一した大王が大和地方に出現していたと考えられる。この統一政権をヤマト政権と呼ぶ。

◆古墳文化

▶古墳時代の生活と信仰

農耕儀礼：**祈年祭**(春, 豊作を祈る), **新嘗祭**(秋, 収穫を感謝)

社：自然神や祖先神(氏神)を祀る

大神神社(三輪山), 宗像大社(沖ノ島), 伊勢神宮(天照大神), 出雲大社(大国主神)

呪術的風習：禊・祓, 盟神探湯, 太占

▶大陸文化の受容

渡来人：朝鮮半島からの渡来人によって大陸の文化や技術が伝来

- 王仁…西文氏の祖。『論語』『千字文』を伝える
- 阿知使主…漢氏・東漢氏の祖。文筆に優れる
- 弓月君…秦氏の祖。養蚕・機織を伝える

漢字の使用：埼玉県稲荷山古墳出土鉄剣銘, 熊本県江田船山古墳出土鉄刀銘

儒教の伝来：6世紀, 百濟から五経博士が伝える

仏教の伝来：6世紀, 百濟の聖明王から公伝

◆ヤマト政権

特徴：畿内が本拠地

大王の存在 = 政治的首長として豪族を束ねる

▶氏姓制度

ヤマト政権は、^{うじ}氏と呼ばれる同族集団ごとに身分秩序を表す^{かばね}姓を与え、豪族を支配・統制した。

- 氏：血縁を中心に構成された同族集団
氏ごとに特定の職務を担当
- ①：家柄や地位といった豪族の身分
臣・連・君など

▶ヤマト政権の仕組み

政治機構：政治の中核 = 臣・連の姓を持つ大臣・大連

朝廷の実務 = 伴・品部を率いた②

人民支配：「部」に編成して支配

- ③ = 特殊な職業に従事し、朝廷に奉仕
- 名代・子代 = 大王とその一族に従属した直轄民
- 部曲^{かきべ} = 豪族の私有民

土地支配：屯倉^{みやけ} = ヤマト政権の直轄地。④が耕作

田荘 = 豪族の私有地。部曲が耕作

◆ヤマト政権の支配拡大

ヤマト政権の大王を中心とした、政治的連合体の状態



次第に地方豪族を支配下に置いていく

例：527年、⑤の乱

地方豪族を服属させると、その地域にヤマト政権の直轄地である屯倉を設置

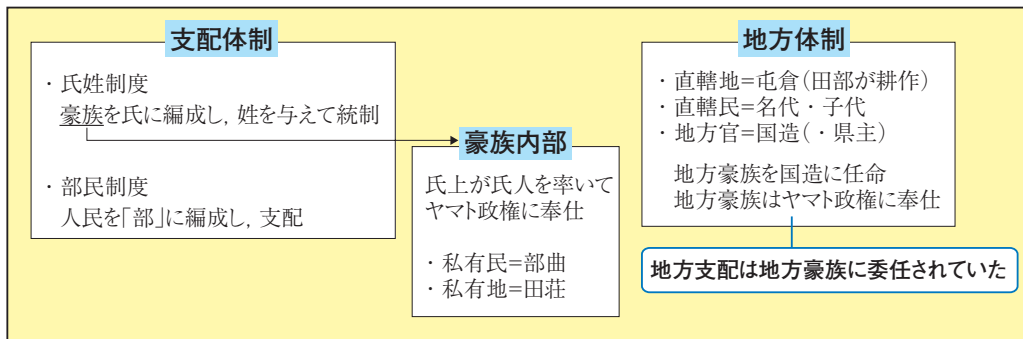
地方豪族を国造に任じ、地方支配権を認める代わりに大王に奉仕させる



支配領域を拡大し、各地の有力豪族を服属・奉仕させることで、大王を頂点とした国家を形成していった。

図表で知識を再構築

▼ヤマト政権の仕組み



空欄の解答

- ① 姓 ② 伴造^{とものみやつこ} ③ 品部 ④ 田部 ⑤ 磐井